

全国で患者数が約35万人と多いアトピー性皮膚炎。治療にステロイド外用剤を長期に使い続けると依存やリバウンド(再燃)が起きることがあるが、日本皮膚科学会の診療ガイドライン

にはこの記載がない。このため「患者に予期せぬ負担や苦痛をもたらす恐れがある」として、学会会員の皮膚科医7人が10日、依存などの記載を求める要望書を学会に提出した。(岩岡千景)

# アトピー性皮膚炎 診療指針

## 「ステロイド依存」明記を

アトピー性皮膚炎は、かゆみを伴う湿疹が慢性に現れる皮膚病。厚生労働省の二〇〇八年の調査では、全国の患者数は三十四万九千人に上る。学会は診療ガイドラインを〇八年に作成し〇九年に改訂。それによると、治療は症状を鎮める対症療法で、ステロイド外用薬とタクロリムス(商品名・プロトピック)軟膏で炎症を抑えるのが基本。さらに保湿剤や保護剤などによる皮膚のケアや、かゆみなどを抑える抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬の服用などを挙げている。

ステロイド外用薬については、瘰癧(にきび)や潮紅(皮膚の赤み)、皮膚萎縮、多毛、細菌などへの感染症の副作用が「時に生じうる」と記し

ている。だが依存やリバウンドの説明はない。同薬は炎症を抑えるが、長期にわたり使い続けると、皮膚のバリア機能を破壊してアレルギー源を侵入しやすくし、アしながら自然治癒へ導く。アしながら自然治癒へ導く。アしながら自然治癒へ導く。

元継氏は元国立名古屋病院医師で、ステロイド外用薬の依存やリバウンドに苦しむ多くの患者を診察し、薬をなるべく使わず消毒や保湿で皮膚をケアする療法を進めてきた。

これらに記載を求めて要望書を出したのは、アトピー性皮膚炎の診療に携わってきた東京都や神奈川県、愛知県などの皮膚科医七人。代表の深谷

長で、九州大大学院の古江増隆教授は「医師はその内容になっている」と話す。うしたことを当然認識

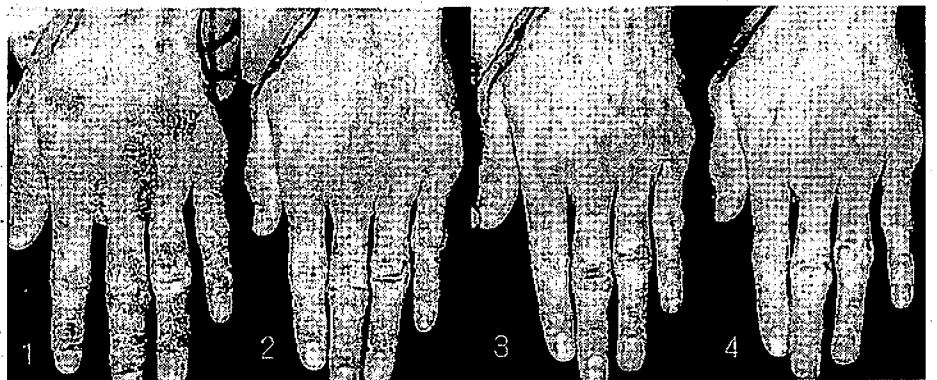
## 7医師提言 効果と危険性伝えて

これらに記載を求めて要望書を出したのは、アトピー性皮膚炎の診療に携わってきた東京都や神奈川県、愛知県などの皮膚科医七人。代表の深谷

長で、九州大大学院の古江増隆教授は「医師はその内容になっている」と話す。うしたことを当然認識

同時に、深谷氏は「ステロイド外用薬の依存やリバウンドを修正せよ」と題する本を、NPO法人「医薬シランセンター」(通称・薬のチェック)から出版した。同法人理事長で医師の浜六郎氏は「センターにも依存などに悩む患者から相談がたびたび寄せられる。本はステロイドの問題について学問的にきちんと説明している」と話す。同書はB5判、百五十九ページ、二千三百円(税別)。全国の国公私立大医学部や図書館に寄贈したという。

## リバウンド症状も



ステロイド外用薬のリバウンド症状が快方に向かう過程(1から4へ)

ラインは〇四年に作成されたが、米医学界では近年、ステロイド依存やリバウンドを明記したコーク博士らの論文が紹介され、認識が広がりつつある」と指摘。「日本でもガイドラインに依存などを記載し、医師から患者へ情報が伝わるようにすべきだ」と提言する。

同時に、深谷氏は「ステロイド依存2010—日本皮膚科学会はアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを修正せよ」と題する本を、NPO法人「医薬シランセンター」(通称・薬のチェック)から出版した。同法人理事長で医師の浜六郎氏は「センターにも依存などに悩む患者から相談がたびたび寄せられる。本はステロイドの問題について学問的にきちんと説明している」と話す。同書はB5判、百五十九ページ、二千三百円(税別)。全国の国公私立大医学部や図書館に寄贈したという。

同時に、深谷氏は「ステロイド依存2010—日本皮膚科学会はアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを修正せよ」と題する本を、NPO法人「医薬シランセンター」(通称・薬のチェック)から出版した。同法人理事長で医師の浜六郎氏は「センターにも依存などに悩む患者から相談がたびたび寄せられる。本はステロイドの問題について学問的にきちんと説明している」と話す。同書はB5判、百五十九ページ、二千三百円(税別)。全国の国公私立大医学部や図書館に寄贈したという。

同時に、深谷氏は「ステロイド依存2010—日本皮膚科学会はアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを修正せよ」と題する本を、NPO法人「医薬シランセンター」(通称・薬のチェック)から出版した。同法人理事長で医師の浜六郎氏は「センターにも依存などに悩む患者から相談がたびたび寄せられる。本はステロイドの問題について学問的にきちんと説明している」と話す。同書はB5判、百五十九ページ、二千三百円(税別)。全国の国公私立大医学部や図書館に寄贈したという。

同時に、深谷氏は「ステロイド依存2010—日本皮膚科学会はアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを修正せよ」と題する本を、NPO法人「医薬シランセンター」(通称・薬のチェック)から出版した。同法人理事長で医師の浜六郎氏は「センターにも依存などに悩む患者から相談がたびたび寄せられる。本はステロイドの問題について学問的にきちんと説明している」と話す。同書はB5判、百五十九ページ、二千三百円(税別)。全国の国公私立大医学部や図書館に寄贈したという。

同時に、深谷氏は「ステロイド依存2010—日本皮膚科学会はアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを修正せよ」と題する本を、NPO法人「医薬シランセンター」(通称・薬のチェック)から出版した。同法人理事長で医師の浜六郎氏は「センターにも依存などに悩む患者から相談がたびたび寄せられる。本はステロイドの問題について学問的にきちんと説明している」と話す。同書はB5判、百五十九ページ、二千三百円(税別)。全国の国公私立大医学部や図書館に寄贈したという。

同時に、深谷氏は「ステロイド依存2010—日本皮膚科学会はアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを修正せよ」と題する本を、NPO法人「医薬シランセンター」(通称・薬のチェック)から出版した。同法人理事長で医師の浜六郎氏は「センターにも依存などに悩む患者から相談がたびたび寄せられる。本はステロイドの問題について学問的にきちんと説明している」と話す。同書はB5判、百五十九ページ、二千三百円(税別)。全国の国公私立大医学部や図書館に寄贈したという。

「15」の追跡